

千葉県立天羽高等学校 いじめゼロ対策チーム 緊急的対応

- 1 いじめられた生徒や保護者から訴えを聞いた
- 2 他の生徒からいじめの情報聞いた
- 3 いじめらしき現場を発見した
- 4 生徒の言動からいじめのサインに気づいた
- 5 外部から情報を受けた
- 6 スクールカウンセラー等から情報があった

教職員

担任・学年主任・生徒指導担当

「悪ふざけ」と判断せず報告

報告書

いじめゼロ対策チーム

校長・教頭

対応会議

会議の構成員

教頭、生徒指導主事、生徒指導部担当教諭、関係学年主任、担任
必要に応じ、
教育相談係、養護教諭、部活動顧問、スクールカウンセラー等

調査項目

- ①状況
- ②動機・背景
- ③いじている生徒の言動と特徴
- ④保護者情報
- ⑤教職員情報

調査上の留意点

- ①被害者の立場で支援する
- ②加害者の言い分は受容的に聞く
- ③事実のみを客観的に聞く
- ④当事者以外から情報があったとき
情報源に迷惑をかけない
- ⑤保護者とは、直接面談する。

保護者

学年会議・職員会議

情報提供

いじめ解決への指導・支援
(スクールカウンセラーの活用)

通知

いじめられている生徒への対応

守り通す姿勢を明確に示す。
周囲の者に相談する事を指導する。
生徒の気持ちを共感的に受け止める。
謝罪でいじめが終わったと思わない。
継続的に観察する。
長所を認め、自信を持たせる。
保護者と十分に相談する。

いじめられている生徒の 保護者への対応

些細な相談でも受け止める。
話し合いの機会を早急に持つ。
事実を正確に伝える。
解決まで継続して連携する。
必要に応じ緊急避難の欠席を認める。

継続指導・観察

いじている生徒への対応

いじめられた生徒の苦痛を理解させる。
周囲の者からも情報を集める。
集団のいじめの場合は、人間関係を分析する。
いじめは犯罪である事を理解させる。
別室での学習等の指導をする。
必要に応じ懲戒を含む特別指導を行う。

いじている生徒の 保護者への対応

相手の心情に気づかせる。
いじめは正当化できないという姿勢を示す。
子どもとの関わり方を助言する。
必要に応じ保護者同士の面談の機会を持つ。

再発予防・予防活動